

幼児教育保育学科学生の乳児保育学習による親性準備性の変化

井 田 史 子・前 田 隆 子
鈴 立 恭 子・菊 原 美 緒

Fumiko IDA, Takako MAEDA, Kyoko SUZUTATE, Mio KIKUHARA :

Development of Readiness for Parenthood of Students in the Department of Childcare and Education
through the Infant Care Training

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第73号 抜刷

2016年7月

幼児教育保育学科学生の乳児保育学習による親性準備性の変化

井田 史子¹・前田 隆子¹・鈴立 恭子¹・菊原 美緒¹

Fumiko IDA, Takako MAEDA, Kyoko SUZUTATE, Mio KIKUHARA :

Development of Readiness for Parenthood of Students in the Department of Childcare and Education through the Infant Care Training

本研究は、幼児教育保育学科学生の特性を知り、乳児保育の授業と、保育所での実習体験を通じて、乳児の受け止め方の変化を見ることを目的とした。A短期大学幼児教育保育学科1年生を対象に、後期開始時と1年終了時の2回アンケート調査を実施した。内容は対児感情と親性準備性を、尺度を用いて測定し、その変化を見ることで学習の効果を検証した。対象学生は、接近感情・回避感情ともに花沢が調査した大学生より高い値であった。学習効果として、乳児を見守る気持ちと、保育という仕事に対する前向きな気持ちの向上が確認できた。

キーワード：幼児教育保育学科学生 対児感情 親性準備性

はじめに

保育士養成課程における科目「乳児保育」では、乳児の発達の理解と、人間形成の基礎となる時期における愛情を持った子供の受け止め、ならびに次への展開を考える洞察力の育成をめざしている¹⁾。学生は他にも多くの乳児保育に関連する科目、演習実習を体験する。

乳児保育教育の対象となる3歳未満児は、訴える力が弱く、また保育者の思いがどこまで届いているのかわからないこともあるため、子どもの虐待はこの時期に多い²⁾。近年虐待により乳児・幼児の命が奪われる報道を耳にする機会が増えている。虐待におよぶ要因として、父・母の成育歴、子どもと接した体験や育児の知識、親になる心構えがないことが関与していると言われて²⁾。鯨岡は「保育実践と子育て論」の中で「いまの親は子どもを主体として受け止めることが難しい」と述べている³⁾。保育

所等で1日の長い時間関わる保育者も、親と同世代であり、同じように言えると考えた。

本研究の目的は、学生の特徴を知り、乳児保育の授業と保育所での実習体験を通じて、乳児の受け止め方がどのように変化しているのかを知り、「乳児保育」での、講義と演習の在り方を検討する。

1. 研究の方法

(1) 研究対象者：A短期大学幼児教育保育学科の1年生(以後、保育学生とする)118名

(2) 研究期間：平成27年10月1日～平成28年1月31日

(3) データ収集方法：無記名自記式質問紙調査。調査は、1年後期開始時(以後、開始時とする)と1年後期終了時(以後、終了時とする)の2回行った。

(4) 質問紙の構成

対象者の属性としては、性別、年齢、兄弟の人数、家族構成、乳児との接触経験、親に対する感情、学科選択の理由を上げた。年齢、兄弟の人数は実数を、他は「はい」を2点「いいえ」を1点とした。

1 鳥取看護大学看護学部看護学科

対児感情は、花沢の対児感情評定尺度⁴⁾を使用した。項目は、接近感情14項目、回避感情14項目である。

接近得点と回避得点は、接近項目と回避項目のそれぞれから求める。両項目とも「非常にそのとおり」を3点、「そのとおり」を2点、「少しそのとおり」を1点、「そんなことはない」を0点として、接近項目と回避項目の個人得点を求めた。

育児感情の評価項目は、佐々木の親性準備性尺度⁵⁾を使用した^{注1)}。佐々木の親性準備性尺度は24項目である。「そのとおりである」を4点、「どちらかと言えばそうである」を3点、「どちらかと言えば違う」を2点、「違う」を1点とした。逆転項目は点数を逆転して、個人得点を求めた。

(5) 統計学的検定は、SPSS23で行なった。対象と対児感情・親性準備性の相関関係、独立サンプルによるMann-WhitneyのU検定を行ない、有意水準は $P < 0.05$ とした。

2. 用語の定義

対児感情とは、「乳児に対する感情」をいう^{注2)}。

接近感情とは、「児を肯定し受容する方向の感情」をいう。回避感情とは、「児を否定し拒否する方向の感情」をいう。

親性準備性とは、「乳幼児への好意感情と育児への積極性」をいう^{注3)}。

3. 倫理的配慮

(1) 対象者の保護と安全の確保

- 1) 学内掲示で、学生にアンケート調査の協力者を募集した。
- 2) 協力の同意の得られた学生に対し、アンケート用紙を配布、アンケートの参加は自由意思であること、本研究の参加・協力は回答をもって同意が得られたものと判断することを説明した。

(2) インフォームド・コンセント

アンケートの紙面上と配布時に口頭で研究目的・倫理的配慮について研究者が説明した。

アンケート内容は対児感情・親性準備性の尺度を使用したもので、直感的に感じた状態をチェックし、深く考えないで記入するように説明した。

本研究は鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号2015-15)を得て実施した。

4. 調査結果

(1) アンケート回収数は、開始時は男5名、女43名、合計48名、回収率43%。終了時は、男7名、女44名、合計51名、回収率46%であった。

(2) アンケート結果の対象者の属性(表1)

開始時の属性について述べ、開始時と終了時に10%以上の差があったものについては追記する。

年齢は、平均 18.9 ± 0.96 歳であった。家族形態は、核家族が26名(55.3%)であり、3世代家族が19名(40.4%)となっている。

兄弟の人数は3人が最も多く19名(40.4%)、次いで2人が18名(38.3%)であった。終了時は、3人が15名(29.4%)であった。

「5歳以上の歳の差の弟妹がいる」が15名(31.3%)、そのうち「10歳以上歳の差の弟妹がいる」は5名(10.4%)であった。終了時は、「5歳以上の歳の差の弟妹がいる」が22名(44.0%)であった。

「親が優しいと感じる」は44名(91.7%)。「親が怖いと感じたことがある」は30名(62.5%)。終了時26名(51.0%)であった。

子どもとの接触体験では、「乳児を抱いた経験が良くある」は11名(22.9%)、「0歳児と遊んだ経験が良くある」は12名(25.0%)。「1~3歳児と遊んだ経験がよくある」は17名(35.4%)、終了時は27名(55.1%)。「4~5歳児と遊んだ経験がよくある」18名(37.5%)、終了時26名(52.0%)であった。

保育士を目指した最も大きな理由では、「子どもが好き」が38名(80.9%)であり、次いで「保育

士という職業に憧れている」が7名(14.9%),「両親・学校の先生に勧められた」が2名(4.3%)という結果であった。

(3) 対児感情と親性準備性 (表 2, 3)

開始時の接近感情点数は平均 31.84 ± 5.31 (平均値 \pm 標準偏差, 以後, 同様に表す), 回避感情点数は 14.44 ± 6.13 であった。終了時の接近感情点数は 32.98 ± 4.98 , 回避感情点数は 13.23 ± 6.51 であった。花沢の調査では, 未婚の大学生の接近感情点数は 24.6 ± 7.52 , 回避感情点数は 9.0 ± 6.40 であり⁴⁾, 対象学生はどちらも高い数値を示していた。

親性準備性の乳幼児への好意感情では, 開始時の合計が 34.58 ± 2.85 , 終了時が 35.19 ± 2.12 であった。育児への積極性では, 開始時の合計が 51.51 ± 4.16 , 終了時が 51.77 ± 5.86 であった。

接近感情, 回避感情, 乳幼児への好意感情, 育児への積極性の各カテゴリーの開始前と終了後における点数間に有意差はなかった。

開始前と終了後の比較では, 対児感情尺度の回避感情である「じれたい」が 1.27 ± 0.84 から 0.91 ± 0.90 に有意 ($P = 0.035$) に低下した。また親性準備性尺度の育児への積極性質問項目のうち, 「育児は楽しいと思う」で 3.17 ± 0.78 から 3.53 ± 0.60 に有意 ($P = 0.016$) に上昇した。その他の項目に有意差はなかった。

(4) 対児感情, 親性準備性と対象の属性との関連 (表 4, 5)

接近感情, 回避感情, 乳幼児への好意感情, 育児への積極性, 対象の属性の項目の「5歳以上の歳の差にある弟妹」, 「10歳以上歳の差のある弟妹」, 「乳児を抱いた経験」, 「0歳児と遊んだ経験」, および「親が怖いと感じたことがある」について, それぞれの相関関係を見た。

開始時で有意差がみられたものは, 接近感情と乳幼児への好意感情 ($P < 0.01$), 接近感情と「乳児を抱いた経験」 ($P < 0.05$), 乳幼児への好意感情と育児への積極性 ($P < 0.01$), 乳幼児への好意感情と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.05$), 「5歳以上歳

下の弟妹」と「乳児を抱いた経験」 ($P < 0.05$), 「10歳以上年下の弟妹」と「乳児を抱いた経験」 ($P < 0.01$), 「10歳以上年下の弟妹」と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.01$), 「乳児を抱いた経験」と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.01$) であった。

終了時で有意差がみられたものは, 接近感情と乳幼児への好意感情 ($P < 0.05$), 接近感情と育児への積極性 ($P < 0.05$), 回避感情と育児への積極性 ($P < 0.01$), 乳幼児への好意感情と育児への積極性 ($P < 0.05$), 乳幼児への好意感情と「乳児を抱いた経験」 ($P < 0.05$), 乳幼児への好意感情と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.05$), 「10歳以上年下の弟妹」と「乳児を抱いた経験」 ($P < 0.01$), 「10歳以上年下の弟妹」と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.01$), 「乳児を抱いた経験」と「0歳児と遊んだ経験」 ($P < 0.01$), 「親が怖いと感じたことがある」と回避感情 ($P < 0.05$) であった。

5. 考察

厚生労働省から平成20年に保育所保育指針が出されている。この中で, 乳児保育に関わる配慮事項として, 「一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行うこと。成育歴の違いに留意しつつ, 欲求を適切に満たし, 特定の保育士が対答的に関わるように努める。保育者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに, 保護者からの相談に応じ, 保護者への支援に努めていくこと」⁶⁾等が記されている。また, 「保育の内容は養護と教育」⁶⁾であるとされている。

保育関連の講義に当たって保育学生は, 乳児をどのように捉えているか。保育に対する心構えはどのようなものであるかを知る必要があると考えた。今回の対象の学生のほとんどが, 子供が好きであると答えている。乳児に対する感情を, 対児感情評定尺度で測定した。花沢の調査の, 未婚の大学生の接近感情, 回避感情と比較すると保育学生は高い得点であった。また, 花沢は乳児との接触が多くなると接

近感情は高くなると述べている⁴⁾。開始時における保育学生も、接近感情は「乳児を抱いた経験がよくある」が有意に高くなっていた。「10歳以上の年齢差の弟妹」では、「乳児を抱いた経験」と、「0歳児と遊んだ経験」の項目間に有意差があった。5歳の歳の差では、乳児との接触体験があいまいであるが、10歳離れると、体験として残っていると推察した。しかしその体験は、接近感情を高めるには至っていない。また回避感情、乳幼児への好意感情、育児への積極性への有意差もなかった。

開始時と終了時の学習効果の比較でみると、回避感情の「じれったい」という項目で低下がみられた。講義での乳児の反応を見ることの大切さが、伝わっているのではないと思われる。回避感情は全体に高い傾向にあり、有意に低下したのは1項目にとどまった。濱は、看護大学生の調査において、回避感情が高い学生は実習後に低下し、低い学生は逆に高くなると述べている⁷⁾。また花沢の調査では、回避感情は多接触群と少接触群の有意差はなかったと報告している⁴⁾。今回の保育学生では回避感情が高いが、終了時にも有意な低下はみられない。花沢の述べている、接触体験で差のみられなかったことと同様の結果と考える。回避感情の項目は、乳児保育をする上では乳児の特性として理解する必要がある。これらの特性を知り、養護につなげる方法を学ぶことが大切である。保育学生が接近感情だけではなく回避感情も高いのは、これらの必要性を認識しているためではないかと考えた。

実習では、乳児の接触体験が少なかった。実習の保育所が0歳児のクラスを持ってない施設も多く、また0歳児クラスがあっても担当していない学生もあったため、乳児保育の経験とならなかったケースも多くあったためではないかと推察する。しかし一部の保育学生は、保育所実習の反省の中で、実習中に児の人見知り、かまってほしいとの甘え、自分の主張を通そうとする乳幼児の対応に苦闘し、その都度、現場の保育士の対応から多くのことを学んだと述べた。土持は「アクティブラーニングを加速させ

る」の中で能動的学習を示し、1つ目は「情報とアイデア」、2つ目は「経験」、3つ目は「省察」を挙げている。3つ目の「省察」の中で「自らの学習プロセスを振り返り、自問自答することが必要になる」⁸⁾と述べている。このように児の成長発達を理解していても、実際の実習の中で体験し、それを克服する方法を学びさらに体験することが大切である。

接近感情としては、優位に上昇しているものはなかったが、低下する項目もなかった。また育児感情の保育への積極性の項目の「育児は楽しいと思う」で点数が高くなっており、育児に対する楽しさがより認識できていると思われた。

さらに保育所実習の効果を上げるには、0歳児の対応ができなかった学生でも、他の学生の体験を通して育児に対する認識の共有と、理解を深める作業が必要であったと考える。授業では、より具体的な育児体験が実感できるように、モデル人形を使い、おむつ交換、抱き方、調乳、授乳、沐浴、心音・呼吸音の聴取、泣き声を聞かせるなどを行った。またおもちゃの作成を通して、乳児との遊びの中で備わっている力を引き出す方法を考えた。紙芝居の作成を通して乳児に興味を持たせる、マナーを教える、遊ぶ楽しさを引き出す体験を学内演習で行った。

アンケート回答者が特定されていないため、個別の比較ができなかった。また、1年後期に限定された期間であり、何によって親性準備性が上がってゆくののかという分析には至らなかった。

学習や体験を通して、乳児を主体として接することができるよう、親性準備性を高める指導を取り入れた。教授法を検討していきたいと考えている。

まとめ

対児感情尺度、親性準備性尺度を用い、A短期大学幼児教育保育学科1年生のうち協力の得られた、後期開始時48名、後期終了時51名の自記式質問紙調査を行った。この結果以下のことが分かった。

(1) A短期大学幼児教育保育学科の1年生の特性

乳児との接触経験は約30%が持っていた。学科を選んだ理由は子供が好きだからであった。対児感情の接近感情・回避感情とも花沢が調査した大学生より高値であった。乳児をかわいいと思いつつも、乳児とかかわることへの不安な思いも示していた。

「0歳児と遊んだ経験がよくある」では接近感情が高く、「親が怖いと感じた経験がある」では回避感情が高い。

(2) 保育所実習・短期大学1年後期の学習により回避感情の「じれったい」、育児の心構え「楽しいと思う」の項目に改善が見られた。このことは、乳児を見守る気持ちと、保育という仕事に対する前向きな気持ちが上がったと推察され、学習の効果が出ているといえる。

研究の限界

今回の調査は、対象とした保育学生の半数の回答しか得られていない。開始時と終了時の回答者が、同じ教育を受けているが、同一であるとは言えないため、個別に対比分析することができなかった。A短期大学の幼児教育保育学科の学生は2年間の教育を受け保育士資格を得る。この調査は全期間で行ったものではないため、途中経過に過ぎない。また、すべての保育士を目指す学生にあてはまるものではない。

謝辞

本研究のアンケートにご協力いただいた、A短期大学幼児教育保育学科1年生の皆様へ深謝申し上げます。

注

1) 親性準備性尺度は、乳幼児への好意感情と育児

の積極性に分け、評価点数の配点を「どちらでもない」を削除し、4段階評価に変更して使用した。

2) 対児感情は、花沢⁴⁾の定義したものにしたがう。

3) 親性準備性は、佐々木⁵⁾の定義したものにしたがう。

4) 資料の表に記載した項目のRは、逆転項目を示しており点数を修正して加算している。

引用・参考文献

- 1) 大橋喜美子『乳児保育』（新時代の保育双書）、みらい、2009、pp. 11-39.
- 2) 坂井聖二（著）・西澤哲（編集）『子ども虐待への挑戦 医療、福祉、心理、司法の連携を目指して』、誠信書房、2013、pp. 3-20.
- 3) 鯨岡和子「保育実践と子育て論—子どもを一人の主体として受け止める—」、『そだちの科学』第10号（2008）、p. 57、p. 59.
- 4) 花沢成一『母性心理学』、医学書院、1992、p. 73、p. 81、p. 241.
- 5) 佐々木綾子「親性準備性尺度の信頼性・妥当性の検討」、『福井大学医学部研究雑誌』第8巻、第1号・第2号合併号（2007）、pp. 41-49.
- 6) 『幼保連携型こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』、チャイルド本社、2014、pp. 45-74.
- 7) 濱耕子「母性看護実習を受講する学生の対児感情の変化と特徴」、『三重看護学誌』（2007）、pp. 83-88.
- 8) 土持ゲーリー法一「アクティブラーニングを加速させる—ラーニング・ポートフォリオの省察的学習—」、主体的学び研究所『主体的学び』第3号、（2015）、p. 51.

資料

表1 対象者の属性

人数 (%)

		開始時 n=48		終了時 n=51		
年齢 (平均値±標準偏差)		18.9	±0.96	19.1	±1.00	
性別	男性	5	(10.4)	7	(13.7)	
	女性	43	(89.4)	44	(86.3)	
現在の家族形態	一人暮らし	3	(6.8)	10	(19.6)	
	家族と同居	32	(66.7)	35	(68.6)	
	友人と同居	1	(2.1)	0	0.0	
	その他	12	(25.0)	6	(11.8)	
入学前の家族形態	核家族世帯	26	(55.3)	31	(60.8)	
	3世代世帯	19	(40.4)	17	(33.3)	
	その他	2	(4.3)	3	(5.9)	
兄弟の人数	1人	4	(8.5)	2	(3.9)	
	2人	18	(38.3)	21	(41.2)	
	3人	19	(40.4)	15	(29.4)	
	4人	6	(12.8)	10	(19.6)	
	5人	0	0.0	3	(5.9)	
5歳以上の歳の差のある弟妹	ある	15	(31.3)	22	(44.0)	
	ない	33	(68.8)	28	(56.0)	
10歳以上の歳の差のある弟妹	ある	5	(10.4)	8	(16.0)	
	ない	43	(89.6)	42	(84.0)	
親が優しいと感じる	はい	44	(91.7)	47	(92.2)	
	いいえ	4	(8.3)	4	(7.8)	
親が怖いと感じたことがある	はい	30	(62.5)	26	(51.0)	
	いいえ	18	(37.5)	25	(49.0)	
子どもとの接触体験	乳児を抱いた経験	よくある	11	(22.9)	16	(31.4)
		1度～数回	34	(70.8)	34	(66.7)
		経験はない	3	(6.3)	1	(2.0)
	0歳児と遊んだ経験	よくある	12	(25.0)	17	(33.3)
		1度～数回	27	(56.3)	32	(62.7)
		経験はない	9	(18.8)	2	(3.9)
	1～3歳児と遊んだ経験	よくある	17	(35.4)	27	(55.1)
		1度～数回	31	(64.6)	22	(44.9)
	4～5歳児と遊んだ経験	よくある	18	(37.5)	26	(52.0)
1度～数回		29	(60.4)	24	(48.0)	
経験はない		1	(2.1)	0	0.0	
保育士を目指した理由	子供が好き	38	(80.9)	37	(72.5)	
	保育士という職業の憧れ	7	(14.9)	10	(19.6)	
	両親・学校の先生の勧め	2	(4.3)	3	(5.9)	
	その他	0	0.0	1	(2.0)	

表2 対児感情

	開始時		終了時		P
	M	SD	M	SD	
接近感情 合計	31.84	5.309	32.98	4.980	.311
あたたかい	2.75	0.438	2.81	0.395	.458
うれしい	2.54	0.544	2.64	0.522	.324
すがすがしい	1.92	0.821	1.96	0.713	.833
いじらしい	1.21	1.010	1.17	0.955	.887
しろい	1.98	0.838	2.19	0.810	.162
ほほえましい	2.77	0.428	2.79	0.409	.952
ういういしい	2.56	0.542	2.49	0.724	.937
あかるい	2.60	0.536	2.66	0.649	.313
あまい	2.06	0.791	2.28	0.885	.090
たのしい	2.53	0.687	2.72	0.495	.174
みずみずしい	1.90	0.881	2.09	0.904	.201
やさしい	2.30	0.749	2.49	0.669	.177
うつくしい	2.04	0.751	2.21	0.793	.215
すばらしい	2.40	0.707	2.51	0.576	.514
回避感情 合計	14.44	6.126	13.23	6.510	.192
よわよわしい	1.96	0.683	2.06	0.691	.526
恥ずかしい	1.32	0.935	1.15	0.864	.373
くるしい	0.81	0.867	0.62	0.765	.281
やかましい	0.91	0.855	0.75	0.830	.327
あつかましい	0.55	0.775	0.42	0.692	.345
むずかしい	2.00	0.875	2.00	0.855	.940
てれくさい	1.60	0.939	1.65	0.968	.811
なれなれしい	0.83	0.808	0.87	0.921	.991
めんどくさい	0.70	0.778	0.53	0.823	.138
こわい	0.83	0.907	0.96	0.919	.440
わずらわしい	0.67	0.818	0.49	0.750	.200
うっとうしい	0.52	0.652	0.36	0.682	.078
じれったい	1.27	0.844	0.91	0.904	.035*
うらめしい	0.56	0.796	0.51	0.697	.882

*P < 0.05

表3 親性準備性

	開始時		終了時		P
	M	SD	M	SD	
好意感情 合計	34.58	2.850	35.19	2.122	.195
赤ちゃんが好き	3.83	0.429	3.96	0.192	.056
かわいと思う	3.92	0.279	3.98	0.137	.138
知りたいと思う	3.81	0.394	3.87	0.342	.448
関心がある	3.83	0.377	3.92	0.267	.159
遊ぶことが好き	3.83	0.429	3.91	0.295	.410
あやしたり笑いかける	3.90	0.309	3.91	0.295	.869
抱いてみたい	3.85	0.357	3.91	0.295	.427
世話をするのが好き	3.77	0.472	3.85	0.361	.430
興味がある	3.83	0.377	3.89	0.320	.440
育児積極性 合計	51.51	4.159	51.77	5.856	.373
自分もしたい	3.65	0.601	3.81	0.441	.132
R 自分がするなんて考えたこともない	3.29	1.051	3.43	0.971	.425
楽しみ	3.40	0.736	3.55	0.637	.294
楽しいと思う	3.17	0.781	3.53	0.608	.016*
素晴らしい仕事	3.69	0.512	3.74	0.486	.605
R つまらない仕事	3.40	0.869	3.53	0.775	.399
親は輝いて見える	3.48	0.722	3.53	0.723	.639
親の生きがい	3.38	0.709	3.53	0.723	.188
自分も成長できる	3.77	0.472	3.87	0.342	.292
R 世の中から取り残される	3.40	0.712	3.28	0.885	.676
R 視野が狭くなる	3.52	0.714	3.36	0.834	.305
R 疲れてみすばらしい	3.55	0.503	3.38	0.765	.388
R つらい仕事	3.36	1.072	3.13	1.127	.170
R 自分の好きなことができない	3.34	1.006	3.02	1.083	.061
R 自信がない	3.17	1.136	3.09	1.005	.340

Rは逆転項目^{注4)}

*P<0.05

幼児教育保育学科学学生の乳児保育学習による親性準備性の変化

表4 相関（開始時）

	接近感情	回避感情	好意感情	育児積極性	性別	5歳以上の年の差のある弟妹	10歳以上の年の差のある弟妹	乳児を抱いた経験	0歳児と遊んだ経験	親が怖い
接近感情	1.000	-.018	.410**	.244	-.231	.159	.178	.341*	.233	.065
回避感情	-.018	1.000	-.150	-.199	-.238	.161	.009	.272	.191	.180
好意感情	.410**	-.150	1.000	.483**	-.097	.138	.123	.268	.315*	-.020
育児積極性	.244	-.199	.483**	1.000	.085	.037	.041	.086	.271	-.078
性別	-.231	-.238	-.097	.085	1.000	.083	.116	-.155	.033	-.123
5歳以上の年の差のある弟妹	.159	.161	.138	.037	.083	1.000	.359*	.306*	.283	.151
10歳以上の年の差のある弟妹	.178	.009	.123	.041	.116	.359*	1.000	.433**	.495**	.123
乳児を抱いた経験	.341*	.272	.268	.086	-.155	.306*	.433**	1.000	.778**	-.086
0歳児と遊んだ経験	.233	.191	.315*	.271	.033	.283	.495**	.778**	1.000	.005
親が怖い	.065	.180	-.020	-.078	-.123	.151	.123	-.086	.005	1.000

*. P<0.05 ** P<0.01

表5 相関（終了時）

	接近感情	回避感情	好意感情	育児積極性	性別	5歳以上の年の差のある弟妹	10歳以上の年の差のある弟妹	乳児を抱いた経験	0歳児と遊んだ経験	親が怖い
接近感情	1.000	.008	.287*	.285*	-.076	.015	.035	.165	.203	.103
回避感情	.008	1.000	-.032	-.397**	-.172	-.098	.018	.089	.025	.350*
好意感情	.287*	-.032	1.000	.332*	-.070	.147	.131	.335*	.325*	.104
育児積極性	.285*	-.397**	.332*	1.000	-.021	.035	-.027	.173	.266	-.119
性別	-.076	-.172	-.070	-.021	1.000	.009	.019	-.224	-.208	-.049
5歳以上の年の差のある弟妹	.015	-.098	.147	.035	.009	1.000	.489**	.105	.089	-.035
10歳以上の年の差のある弟妹	.035	.018	.131	-.027	.019	.489**	1.000	.399**	.374**	0.000
乳児を抱いた経験	.165	.089	.335*	.173	-.224	.105	.399**	1.000	.942**	.016
0歳児と遊んだ経験	.203	.025	.325*	.266	-.208	.089	.374**	.942**	1.000	-.050
親が怖い	.103	.350*	.104	-.119	-.049	-.035	0.000	.016	-.050	1.000

*. P<0.05 ** P<0.01